

生物多様なごや戦略 第2回策定会議（要点）

日時：平成20年12月8日（月） 13時30分～16時30分

場所：名古屋市役所 正庁 本庁舎5階

出席者：

＜策定会議委員＞

氏名	専門家会議	しみん検討会議	所属・役職等	出欠
安田 喜憲	座長		国際日本文化研究センター教授	出席
向井 清史	委員		名古屋市立大学大学院経済学研究科教授	出席
海津 正倫	委員		名古屋大学大学院環境学研究科教授	出席
芹沢 俊介	委員		愛知教育大学自然科学系生物領域教授	出席
辻本 哲郎	委員		名古屋大学大学院工学研究科教授	出席
下田 路子	委員		富士常葉大学環境防災学部教授	出席
土屋 泰広	委員		(株)コンボン研究所取締役	出席
千頭 聡	委員	世話人	日本福祉大学国際福祉開発学部教授	出席
香坂 玲	委員	世話人	名古屋市立大学大学院経済学研究科准教授	出席
長谷川 明子		世話人	生物多様性アドバイザー	出席
広田 奈津子		世話人	生物多様性アドバイザー	出席
新海 洋子		世話人	なごや環境大学実行委員	出席
内木 哲朗		世話人	中津川市職員	出席
矢部 隆		世話人	愛知学泉大学コミュニティ学部教授	出席

＜事務局出席者＞

氏名	所属・役職等
山田 雅雄	副市長
加藤 正嗣	名古屋市環境局長
神下 豊	名古屋市環境局理事
小林 明生	名古屋市環境局環境都市推進部長
増田 達雄	名古屋市環境局環境都市推進部生物多様性企画室長

●なごや戦略の構成と今後の作業について

増田

資料2 (骨子と目次構成案) の説明、資料3 (戦略の構成) の説明 (パワーポイント) を行った。

事務局案のストーリーに意見・アドバイスを頂きたい。

安田

未来を論じるのに、バックキャスティングが世界の潮流であるが、なごや戦略では昔の豊かな自然を未来に復元するという、逆ビジョンの考え方である。歴史と伝統に立脚したあり方が大切である。事務局説明のパワーポイントで問題点あれば指摘願いたい。

辻本

バックキャスティングで将来のターゲットとしてもっと古い時代を考えている。(p4のPPTの説明の) 地理から見る伊勢湾流域の生物相のところは十分でない。地質、生物相の変化、農耕、稲作の文化の様子については名古屋の将来を考える上で重要である。生物多様性をみるには、古い情報の将来のプロジェクションの仕方を議論すべきである。

土屋 (パワーポイントで説明)

- ・地域のエネルギーとして、石油は有限である。現在、炭素をとりあっているが、100年後は今と違う。ウランもそう多くない。
- ・使えるエネルギーとしては、波、風、地熱では賄えない。太陽のめぐみが大きい。また、植物のバイオマスが役立つ。
- ・植物による炭素循環は、カーボンニュートラルである。
- ・樹木は手入れしないと炭素を吸収しなくなる。
- ・二酸化炭素吸収は、午前中高く、午後には低い実験結果がある。
- ・樹木は感覚的な音の低減効果がある。
- ・森はヒートアイランドを緩和する。明治神宮の例では夏季で数度違う。
- ・窒素肥料には重油が使われる。N₂Oの温室ガスが出るので要注意。
- ・木や池があればよいのではなく、生活に密着することや有効活用についての議論が必要。
- ・生物多様化を考えると、上流から海まで考えることは避けて通れない。

香坂

緑化地図のPPTで緑が減っている。これが何によって引き起こされているかをみる必要がある。名古屋市では緑地支援という形で金融のインセンティブを通した政策を出しており、戦略の中で触れるべきである。

芹沢

二酸化炭素の吸収は手入れすると増えるように見えるが、樹林として扱っていれば同じ(極相林になるまでは吸収、それ以後は0)。

石油がなくなるとのことであるが、石油の値段が高くなると消費量も減る。一定限度の値段で使用しなくなるため、石油がなくなることはない。

代替エネルギーでは、重水素による核融合に頼ることになるかもしれないが、第二の太陽を作ることになり、熱収支のバランスが崩れる。

土屋

石油は今と同じような条件が前提であり、値段も考えると寿命は延びるかもしれない。100年先が今と同じではないという前提で考えたほうがよいということ。

樹林の炭素吸収は、芹沢委員の言うとおり、トータルでみるとそのとおり。

安田

石油の値段が上がれば、人はプラスチックを使わず、木を使うようになるのか。石油からものを作る必要がなくなる時代が来るのか。

芹沢

核融合のエネルギーがあればプラスチックは、簡単に作ることができる。ただし、熱収支は決定的に崩れる。

向井

名古屋コーチンなど品種の開発をしてきたこと、また、レジャーの価値の経済化についても拾い上げてほしい。

下田

過去の先人の自然に即した知恵について記録し、将来に伝えてほしい。また、生物多様性戦略に入れ込んでほしい。

3章でため池や河川の氾濫原に残る湿田に豊かな自然が残っていることも入れてほしい。マップに示していただけたらよい。

千頭

テーマをつなげる作業が必要である。アプローチ方法として、名古屋に残っている痕跡、例えば地名を切り口に過去につなげる必要がある。

生物多様性を考える場合、伊勢湾を意識して資料作りをする必要がある。

加藤

100年前の土地利用(1891年の図面あり)と現在の地形図を組み合わせ、なごやの潜在的な生物エネルギー(地域ごとの潜在的な植物相とか動物相)について何か想定できないか。これを座標軸として評価すると議論しやすくなる。

生物相や生態系を類型化してパターンとして整理するとわかりやすい。

小林

なごや戦略を見える化して、わかりやすくすべき。

辻本

名古屋がどうして変わったのかを考える必要があり、この地域の環境容量のポテンシャルを認識すべきである。また、過去に戻すというが、どのくらい何を考えれば戻せるかを示すべきである。他の地域と共存しながら名古屋のポテンシャルが確保できるかを計算するべきである。そうでないと、単に100年前に戻すといっても、化石燃料の浪費になるかもしれない。これに警鐘を鳴らすのが生物多様性という指標であり、このような視点を持つべきである。

香坂

千葉県戦略が有名でインパクトがあるが、作り方のプロセスはそれだけがモデルではない。各都道府県で様々な作り方をしている。また、100年前との比較の中に、人間社会、例えば、人づくりとか大

学とかを入れる必要がある。人をどのように育成してきたか、育成してゆくかをなごや戦略に入れると面白い。

新海

大事なことは、すべての人が当事者になること。社会システムがどう変わった、未来はどうしたい、メリット、デメリットは何か、何をどうすればよいのかを市民にみえるようにすることが必要である。

●望ましいなごやの姿について

千頭委員がファシリテーターとして意見を集約した。

1. 今のなごやが抱える課題

千頭 なごや戦略を誰のためにつくるのか、名古屋市民がどう実のあるものにしていくかという視点で、今のなごやが抱える課題を記載願う。

- ・芹沢 基礎情報がない。実効ある戦略を立てようがない。
- ・矢部 生物収集・分析・発信の場がない。
- ・下田 情報がないので、大人も子供も知らない。
- ・辻本 名古屋の望ましい姿について市民の認識がない。自然との共生の意識が少ない。
- ・向井 名古屋市、愛知県はものづくりに偏重。ソフトを軽視している。
- ・土屋 近所との連携、コミュニケーションがない。
- ・広田 日本らしい市民参加ができないか。ドイツと比べて地縁組織は残っている。
- ・長谷川 議会民主主義で他人任せ。日本らしい市民参加ができればいい。
- ・内木 現況では、限界集落とか問題となっており、高齢化で山づくり、水づくりで山へ入る人がいない。山づくりをどうやっていくか。
- ・向井 名古屋の公共投資で電線の埋設が遅れている。広い道路を生物多様性に利用しようにも電線が邪魔となる。
- ・加藤 水、木、土の衰退。横に広がる土地利用と関係がある。
- ・下田 今のような土地の使い方では緑地が減少する。動植物の生育・生息地が減少し、生物多様性低下がとめられない。
貴重種の認識がない。動植物の価値が認められていない。
- ・辻本 失われてしまった水域、自然、生息場。
- ・矢部 生き物の生息場所(田園、ため池、川、里山)の低下。
- ・長谷川 守りたいものが守られていない。守りたいのに開発されてしまう。
街にある緑がパーツに。流域のつながりがなく、循環がされていない。
- ・小林 緑が少なく、楽しくない。
- ・海津 景観認識に乏しい。全体的な意識が必要。自然景観が主だが、これだけではない。
- ・土屋 夏場の高温、交通渋滞がひどい。
- ・広田 景観、里山的文化の振興、美意識の育成を街づくりに込められるとよい。
- ・内木 子供たちに森づくりを伝えることを提案したい。
- ・安田 名古屋城しかない。歴史的なものがない。

千頭 上記に対するコメントはあるか？

- ・辻本 森と水と生息場の話と意識の話をつなぐものとして、流域圏という言葉がキーワードとなる。

2. 100年後のなごや

千頭 100年後のなごやのイメージは？

めざすべき地域の姿、簡単な文章で、キーワードでもOK。

- ・香坂 技術力と環境保全、持続可能な利用が両立。コンパクトインターナショナルシティ。
- ・海津 50年後を考えるべき。100年後は空想の域。50年後なら想像可能。100年後のことを考えるのは無責任である。
- ・安田 20年後(ハッチョウトンボの復活)、40年後(両生類の復活)、100年後(フクロウの復活)とステップアップを考える。
- ・矢部 無理な開発を脱却。流れが変わり、博物館を作る方向へ変わることも。
- ・辻本 自然に責任を持つ土地利用。堀川型を目指すのではなく、庄内川が自然に近い川になるイメージ。
- ・長谷川 ハード面では、質の高い緑の導入。保全すべき自然のゾーニングがされ、豊かな自然の中に都市がある。
市民意識の面では、身近な自然に目を向けること。行動が伴うこと。
- ・向井 身近な自然とそれを楽しむコミュニティが生み出されていること。
- ・下田 生き物が大好きな子供に。今、生物に関心のない子が多い。
- ・土屋 人をつくることも大事。学校教育で生き物のつながりを教えることが必要。
- ・広田 文化的な街。名古屋を新しい里山の文化的な街にする。例えば、粋なお月見をするとか。
- ・芹沢 悲観的。長期展望なし。なるようにしかならない。せめて最低から脱却。
- ・安田 そこに暮らす人が生き生きと暮らす。3世帯同居する暮らしを取り戻すことが必要。
- ・加藤 駅そば再生と自然再生の相合傘。コンパクトシティ。現在の基本情報が不足している段階では、緻密に戦略を組み立てるより、そこそこの健康回復を狙えばよいのでは。
- ・小林 楽しめる名古屋。都会ではオープンカフェでビールを飲み、郊外では、ハイキング、森林浴をする。
- ・内木 流域連携、名古屋州という大きな捉え方が良いのではないかな。

千頭 上記に対して気づいたことは？

- ・芹沢 フクロウは現在でもいるのでは。東山クラスの緑地があるのは大都市では名古屋くらいで、恵まれている。先人は名古屋を良かれと思って変えてきたが、結果はだめであった。これが問題である。
- ・向井 農業の担い手がいなくなる。自然の価値の担い手の議論をしないと、空き地(農地)ができて誰もいなくなる。
- ・広田 「ごんぎつね」で森を再生(半田から瀬戸の山にかけて生息していた。50km移動する)
- ・芹沢 1頭で50km移動は無理だが、瀬戸から半田まで森が連続していれば可能。現在、それが切れているが、これがキーポイント。
- ・千頭 大正時代には分断されていたようだ。
- ・加藤 江戸時代、名古屋と末盛～瀬戸は同じ土地利用であった。
- ・矢部 キツネを戻すなら、アライグマを取り除く必要がある。

3. 100年後に向けた戦略

千頭 他の人の意見もみて、どうすればよいか、どこから手をつけたらよいか、100年先を目指して考えてほしい。戦略の柱をキーワードで、簡単な文章でもOK。

- ・香坂 100年前の豊かさ、何を取り戻し、何をあきらめるか。
- ・下田 **なぜ、誰が、どうやって**の3つをきちんと押さえること。「なぜ」：なぜやるのか明確に。「誰が」：自分は知らないではだめ。「どうやって」：100年前の知恵、文化を活用できるのでは。
- ・辻本 バックキャストの考えかた、100年後にどうなるかをみて今の戦略をフレキシブルに考えたい。大きな循環を取り戻すため、**将来から今をみる**手法を考えたい。
- ・向井 **自然の多様性を価値と考える文化の育成**が必要。戦略の計画立案にあたって、議員（行政が補助）とNPOの戦いがある。両者の役割を整理し、**NPOの育成**を考えるべきである。地域コミュニティだけでは、どうにもならない。
- ・海津 **地域の特性を踏まえた自然の保全と再生**が大事。
- ・芹沢 **自然史博物館**を作らないと、いくら頑張ってもだめである。名古屋クラスの街で自然史博物館がないところはない。ハコモノができるとは思わないが、せめて**人材（生物の専門家）の確保**が必要である。
- ・矢部 千葉県の**博物館（エコ・ミュージアム）**のまねをしてはどうか。新しくハコモノを作らなくても、廃校の小中学校の建物を利用できるのでは。
- ・広田 専門的な内容より、**アーティスティックなムーブメント、文化人に予算をつける**べきである。
町内会で戦略を立ててもらう。すべての大人が取り組み、自治体を巻き込むべきである。
- ・長谷川 **環境意識・環境教育への投資**をしてゆくことを戦略の中にいれる。ボランティアでは限界があり、**きちんとした仕組み**を作るべきである。現在の街づくりや法律には生物多様性の視点が入っていない。**パラダイムシフト**をし、**新しい条例作り**が必要。
- ・土屋 土地活用は**行政が主導**せざるを得ない。付加価値をどう考えるか。税制バックアップするなど行政の活躍の場がある。
- ・安田 どんぎつね、フクロウの**メリット**を明らかにする必要がある。
生きとし生けるものとともに暮すことが最大の喜びということに名古屋市民が目覚める必要がある。
そういう文化を創造することが課題である。
名古屋は、名古屋城以外知られていない。**東山の森のすばらしさ**は知られていない。世界中で東山の森が**すばらしいとわかる森**にしていくことが大事。
日本人の歴史伝統文化自然観に立脚して、**自然観を構築**する。
少子高齢化で、**国際結婚**を奨励する。
- ・内木 **木使い運動**を実施する。公共施設を木造に、木育塾、寺子屋などを町内会のコミュニティに作る。
野外教育センターを利用し、1000年先の子供の**ビジョン**を教育してゆく環境が必要である。
- ・小林 戦略で**楽しく、ワクワクするビジョン**を示すべきである。
- ・加藤 どんなちっぽけなことでも伝えてゆく。**何気ない所で生き物が頑張っていることが伝わる**ようにする。

安田

以上の意見を事務局で整理し、来年度に向けて、戦略を明確にしてゆきたい。次回は、課題について議論してほしい。